

施工技術

(環境メンテナンス事業)

(日本防菌防黴学会正会員 N010004780)



ワタベ塗工株式会社

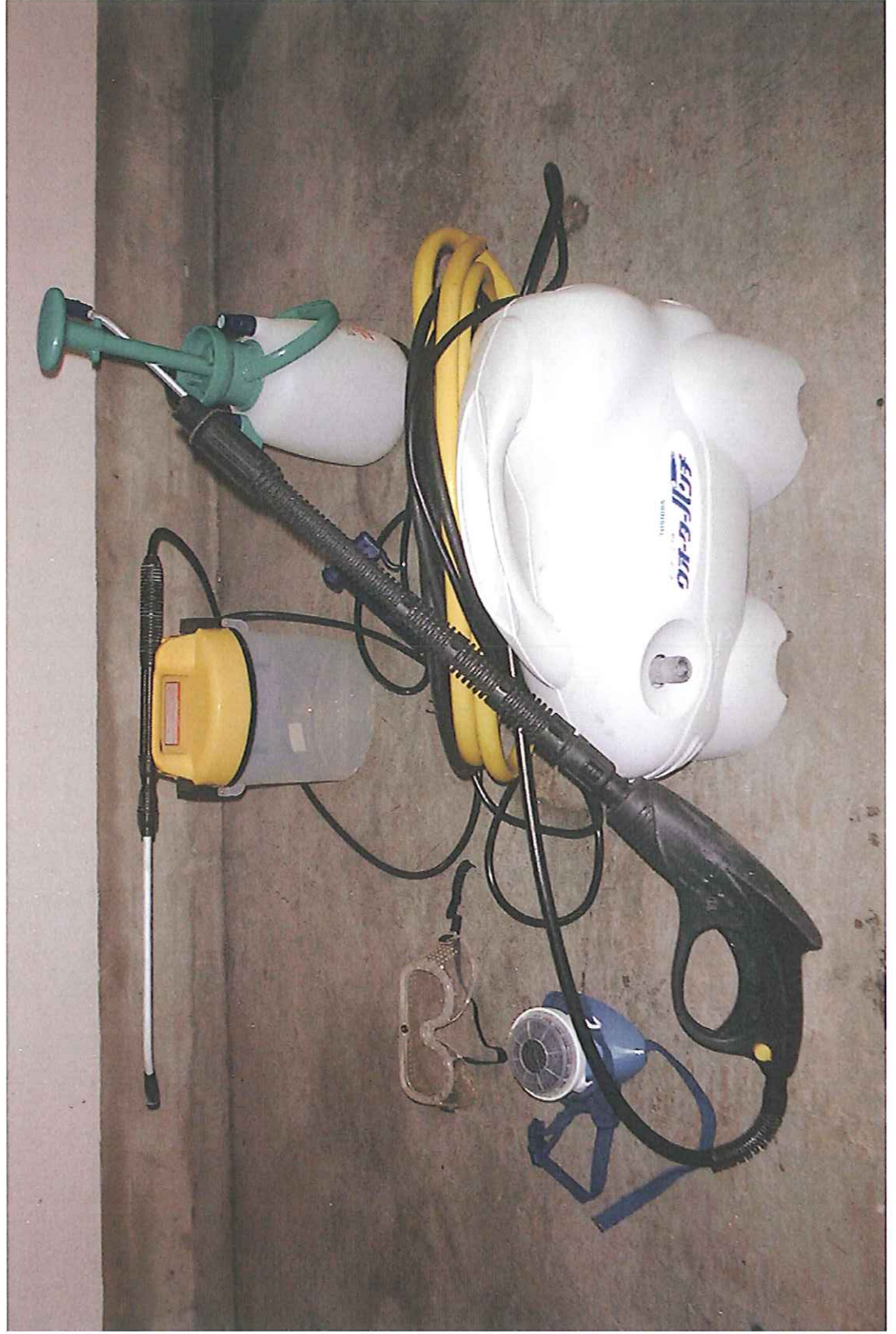
〒277-0033 千葉県柏市増尾 2-11-7

TEL 04 - 7173 - 2781

FAX 04 - 7173 - 2142

ECOクリーン工法必要機材

上段 電池式噴霧器・手動噴霧器 左下 保護メガネ・防護マスク 右下 洗浄器



(施工方法)

浴室・・・使用液剤 ECO-A、

① 浴室全体に水をかけ、浴槽には、水を溜めておく。

ECO-A を3倍に希釈し噴霧器で浴室全体に散布する。

施工前



施工後



② ～30分後、水でよく洗い流す。カビが残っている場合は、その部分にもう一度ECO-Aを噴霧器で散布し、その後浴槽含め水洗いする。

施工前



施工後



施工前



施工後



施工前



施工後

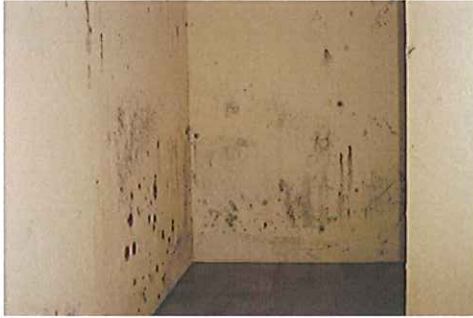


☆施主等から中和を求められたら A 用リンス剤を水でECO-A と同希釈倍率に薄め施工部分に噴霧器で塗布した後、水でよく洗い流す。

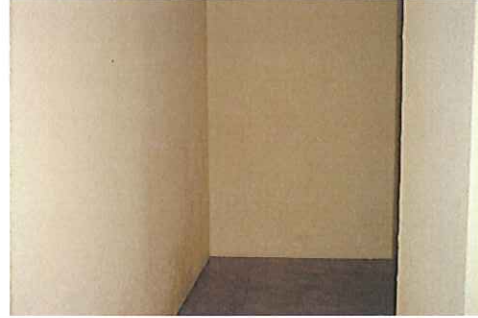
内壁 (ビニールクロス)・・・使用液剤 ECO-A,

- ① 畳や床、柱等に養生をしておく。ECO-Aを3倍に希釈し全体に散布する この時噴霧器を霧状にし、平均的に散布する。

施工前



施工後



- ② ~30分後、ウェス等で良く水拭きする。この時汚れ等も同時に拭き取る。

施工前



施工後



施工前



施工後



内壁・天井 (タバコのヤニ)

ECO-Aを3倍に希釈し全体に刷毛で塗布しウェス等で水拭きする。

施工中



施工中



外壁（壁、塀）ブロック打放コンクリート・・・使用液剤 ECO-A

- ① 壁面全体に水をかけ十分に濡らすECO-Aを3倍に希釈し噴霧器でまんべんなく散布する。カビのひどい個所は多めに散布する。

施工前



施工後



- ② 30分～1時間後洗浄器等で良く洗い流す。（水圧 25～30 kg）

施工前



施工後



施工前



施工後



施工前



施工後



☆施主等から中和を求められたらA用リンス剤を水でECO-Aと同希釈倍率に薄め施工部分に噴霧器で塗布した後、水でよく洗い流す。

(施工方法)

サビ染み除去・・・使用液剤 **ECO-F**、

- ① **ECO-F** 2～3倍に希釈し化学繊維 100%の刷毛を使用し“こする”ように塗布する。

施工前



施工後



- ② サビが落ちたらF用リンス剤を水でECO-Fと同希釈倍率で薄め噴霧器で施工部分塗布する。
- ③ F用リンス剤塗布後速やかに水で洗い流す。
- ④ 1回で落ちきらない場合2～3分後に繰り返し行う。

施工前



施工後



光沢のタイルサビ染み除去・・・使用液剤 **ECO-F**

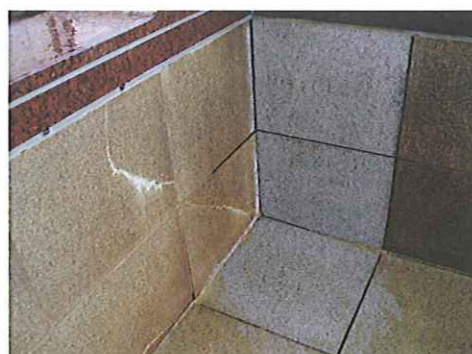
施工する前に必ずテストをしてから施工をはじめてください。

- ① **ECO-F** 3～4倍に希釈し化学繊維 100%の刷毛を使用し“こする”ように塗布しながら、**すぐにウエスで拭き取る**。
- ② F用リンス剤塗布後速やかに水で洗い流す。

施工中



施工中



※ **必ず汚れが落ちたら、速やかにふき取**か、F用リンス剤塗布後速やかに水で洗い流す。

光沢を落としたりシミや変色の原因になります。

タイル汚れ除去・・・使用液剤 **ECO-F**、

- ① **ECO-F** 2～3倍に希釈し化学繊維 100%の刷毛又はナイロンブラシで
“こする”ように塗布する。

施工中



施工中



- ② 汚れが落ちたら、**F**用リンス剤塗布後速やかに水で洗い流す。

施工中



施工中



エフロ除去・・・使用液剤 **ECO-F**、

- ① 飛散の恐れがある箇所には必ずマスク等で養生して下さい。
② ある程度の表面を削り落としてから作業を始めてください。
③ **ECO-F** を化学繊維 100%の刷毛で塗布し、ナイロンブラシかスコッチブラ
イトでブラッシングして下さい。

施工前



施工後



※ 除去できるまでこの作業を、繰り返し行って下さい

- ④ エフロ汚れが落ちたら、**F**用リンス剤塗布後速やかに水で洗い流す。

ガラス鱗状斑点除去・・・使用液剤 ECO-F、

施工する前に必ずテストをしてから施工をはじめて下さい。

- ① ECO-F 2～3倍に希釈し化学繊維 100%の刷毛又はスコッチブラシで
“こする”ように塗布しながら、**すぐにウエスで拭き取る。**

施工後水で洗い流す。

施工前



施工後



※ 必ず汚れが落ちたら、速やかにふき取るか、F用リンス剤塗布後速やかに水で洗い流す。

光沢を落としたりシミや変色の原因になります。

※タイル・石・ガラス等施工後、”ECO-石ピカ”を使用すると
光沢等効果が出ます。

ECOクリーン工法（施工方法）

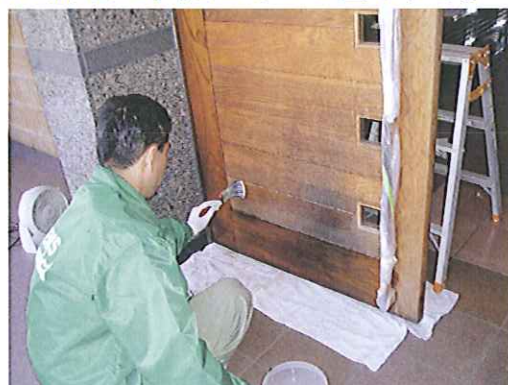
木部扉洗淨・・・使用液剤 ECO-I

- ① 木部全体を、濡れたウエスで汚れを充分拭き取る。



- ② 扉手すり、小窓ガラスをマスキング等で養生する。

ECO-Iを3倍に希釈し 化学繊維100%の刷毛で木目にそって塗布する。



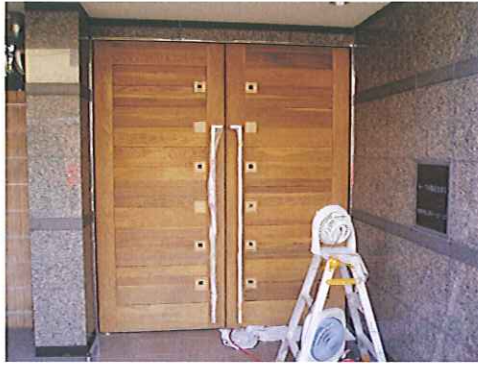
- ③ 木部全体を、汚れによって1~3回塗布する、塗布後ウエスでアクを拭き取る。



※ 雨染み等がある場合

- ④ 乾燥後 ECO-F を2~3倍に希釈し化学繊維100%の刷毛で塗布する。

⑤まんべんなく塗布後、乾燥させる。



施工中



施工後



施工前



施工後



施工前



施工後



ECOクリーン工法（施工方法）

換気扇油汚れ・・・使用液剤 ECO-O

- ① フィルターやフィン等取り外せるものは外して下さい。
モーターやスイッチ等電気部分には養生して下さい
- ② ECO-Oを3倍に希釈し化学繊維100%の刷毛又は噴霧器で塗布して下さい。
- ③ 約5分後、布ウエスや雑巾で拭取ってください。

施工前



施工後



- ④ 頑固な汚れは軽くブラッシングするか、漬け置き後、水で洗い流して下さい。

施工前



施工後



床の油汚れ・・・使用液剤 ECO-O

- ① ECO-Oを化学繊維100%の刷毛又は噴霧器で塗布し、ナイロンブラシで軽くブラッシングする。

施工前



施工中



② ブラッシング後、水で洗い流せない時は、集塵機で処理後、ウエスで拭取る。

施工中



施工後



※ 汚れが多い場合はサイド繰り返し作業を行う。

アルミサッシ・テント他汚れ・・・使用液剤 ECO-O

① ECO-Oを3倍に希釈し化学繊維100%の刷毛で塗布し、汚れが落ちたら布ウエス等でふき取って下さい。

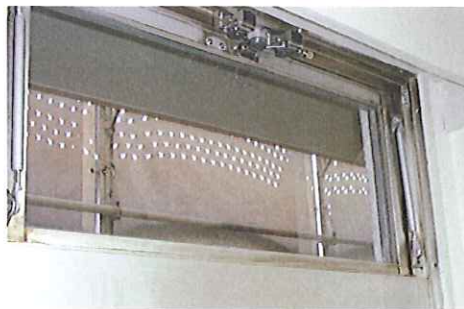
施工中



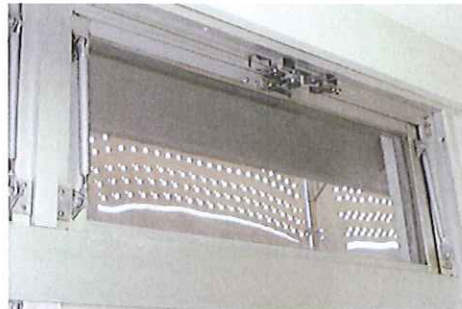
施工中



施工前



施工後



表施工



裏部分



ECOクリーン工法（施工方法）

1

空調殺菌洗浄・・・使用液剤 ECO-O

施工中



施工中



①ECO-O液を5倍程度に希釈し、全体に塗布する。

施工中



施工中



②5～8分後水で洗い流す。

洗浄前



洗浄中



③外したカバーや付属品も同様に行う。

2

洗浄後



洗浄後



組立中



完成



ECO-O の特徴

- ① 洗浄効果に加え、除菌効果がある。
- ② 液剤の臭いが少なく残臭性がない。
- ③ 排水をそのまま流せる。(排水証明取得済み)
- ④ 金属やプラスチック等を腐食させない。

ECOクリーン工法（施工方法）

洗濯機洗浄・・・使用液剤 ECO-A・O

施工前



施工前



① ECO-A・Oを1対1で混合し、3倍程度に希釈し、全体に塗布する。

施工前



施工前



② 5～8分後水で洗い流す。

洗浄中



洗浄中



③外したカバーや付属品も同様に行う。

2

洗浄後



洗浄後



施工後



完成



ECO-A・Oの特徴

- ① 洗浄効果に加え、除菌効果がある。
- ② 液剤の臭いが少なく残臭性がない。
- ③ 排水をそのまま流せる。(排水証明取得済み)
- ④ 金属やプラスチック等を腐食させない。

ECO-B

(防カビ防汚剤)

用意する道具 (作業1人分)

- ・ ECO-B 1本
- ・ ポリ容器 (1~3ℓ) 1個
- ・ 化学繊維100%の刷毛又はニス用刷毛 1本
- ・ ゴム手袋又は、ビニール手袋
- ・ ウェス 相当数
- ・ マスカー 相当数

※ 室内での作業の時、畳等必要に応じて養生して下さい。

- ・ 防毒マスク 1個
- ※ 作業中多少臭いがしますので、臭いの気になる方はマスクの着用をお勧めします。尚、作業が終了し乾燥すると臭いは消えます。
- ・ 保護メガネ 1個

使用方法

1. 準備 : ①ゴム手袋、保護メガネ、必要に応じて防毒マスクを着用して下さい。
②塗布にはニス用刷毛もしくは噴霧器を使用して下さい。
③作業時の容器はポリ又は金属の手缶を使用して下さい。
④ガラス、サッシ、木製建具、植栽、車、池等飛散の恐れがある箇所及び施工しない部分にはマスカーやビニールシート等で養生をして下さい。
⑤ホコリは乾いたウェスや刷毛等でとっておいて下さい。
⑥施工箇所全体を十分に乾燥させておいて下さい。乾燥は自然乾燥が望ましいが強制乾燥する場合は熱をあてずに風乾(扇風機等)で行って下さい。
2. テスト : ①本作業前に必ずテストをして下さい。
②なるべく目立たない箇所にECO-Bの原液を刷毛で塗布して下さい。(5cm²程度)
③15分後程度自然乾燥させて下さい。
④変質等の問題がなければ本作業を行って下さい。

3. 本作業

塗 装 面(リシン吹付け、塗料仕上等の壁面)

- ①十分に塗装面が乾燥している事を確認した上で「保護剤」を手缶に移し刷毛又は噴霧器で塗布して下さい。
- ②塗布量は1ℓ当り 20 m²を目安にしてください。
- ③塗布後、自然乾燥を充分に行って下さい。(夏期で3時間程度、冬期で6時間程度)

※溶剤系塗料で塗装仕上げを行っている部分に塗布する場合は1回の塗布量を少なくし2度吹きして下さい。一度に多量の「保護剤」を塗布すると塗膜表面が溶ける場合があります。

塗装未処理面(石、石膏ボード等)

- ①十分に塗装面が乾燥している事を確認した上で「保護剤」を手缶に移し刷毛又は噴霧器で塗布して下さい。
- ②塗布量は1ℓ当り 15 m²を目安にしてください。
- ③塗布後、自然乾燥を充分に行って下さい。(夏期で2時間程度、冬期で5時間程度)

※石に光沢(濡れ色)を出したい場合は「石ピカ」を使用して下さい。

室内クロス

- ①十分にクロスが乾燥している事を確認した上で「保護剤」を手缶に移し刷毛又は噴霧器で塗布して下さい。
- ②塗布量は1ℓ当り 20 m²を目安にしてください。
- ③塗布後、自然乾燥を充分に行って下さい。(夏期で2時間程度、冬期で5時間程度)

※クロスを剥した場合も同じ作業ですが、断熱材には直接塗布しないで下さい。変質をおこします。

浴 室

- ①十分に躯体が乾燥している事を確認した上で「保護剤」を手缶に移し刷毛又は噴霧器で塗布して下さい。
- ②塗布量は1ℓ当り 20 m²を目安にしてください。
- ⑤塗布後、自然乾燥を充分に行う。(夏期で3時間程度、冬期で6時間程度)

※ガラスや鏡に誤って塗布した場合は、必ず保護剤が乾く前に、乾いたウエスで拭き取ってください。

使用上の注意

- 本製品は薄めず原液のまま使用して下さい。
- 火気の側で使用しないで下さい。※火気厳禁
- 本製品は塗料、仕上げ剤ではありません。
- 施工箇所を十分に乾燥させて下さい。(乾燥が不十分の場合、液剤が分離してしまい保護効果は期待できません)
- 施工時は晴れの日を選び雨の日は避けて下さい。
- 室内での作業については十分に換気をして下さい。
- 塗布後のドライヤー等の熱による強制乾燥は行わないで下さい。
- 塗布後乾燥前に水や湿気に当たるとくすみや、シミの原因になりますので、塗布後 6 時間程度は水分をあてないように十分注意して下さい。
- 本製品がアルミのドア等の施工部位以外に付着した場合は、速やかにその部位に保護剤をウエスに少量とり拭いた上で、更に速やかに乾いたウエスで拭き取って下さい。
- 用途以外に使用しないで下さい。

保管上の注意

- 直射日光を避け、子供の手の届かない屋内で常温にて保管して下さい。
- 火気の側に保管しないで下さい。※火気厳禁
- 必ず密栓し鉄缶で保管して下さい。※ポリ缶不可
- 車内での保管は絶対に避けて下さい。
- 使用した余りの本製品や、汚れの混入した本製品は保管しないで下さい。
- 他の製品と混ぜたり、水分を混入させないで下さい。
- 本製品を廃棄する場合には、おがくず、ウエス等に吸収させ焼却して下さい。

ECO-B木部用

(木部保護剤)

用意する道具 (作業1人分)

- ・ ECO-B木部用 1本
 - ・ ポリ容器 (1~3ℓ) 1個
 - ・ 化学繊維100%の刷毛又はニス用刷毛 1本
 - ・ ゴム手袋又は、ビニール手袋
 - ・ ウェス 相当数
 - ・ マスカー 相当数
- ※ 室内での作業の時、昼等必要に応じて養生して下さい。
- ・ 防毒マスク 1個
- ※ 作業中多少臭いがしますので、臭いの気になる方はマスクの着用をお勧めします。尚、作業が終了し乾燥すると臭いは消えます。
- ・ 保護メガネ 1個

作業前の準備

- ゴム手袋、保護メガネ、必要に応じて防毒マスクを着用し作業に掛かって下さい。
- 刷毛は専用の刷毛を使用して下さい。
- 植栽・車等飛散の恐れがある箇所にはマスカー等で養生して下さい。
- 木部を十分に乾燥させて下さい。(乾燥が不十分の場合、液剤が分離してしまい保護効果は期待できません)
- 施工時はなるべく晴れの日を選び雨の日は避けて下さい。
- 室内での作業については換気をよくし、マスカーにて養生をして下さい。

テスト方法

- 本作業の前に必ずテストをして下さい。
 - テストの仕方はなるべく目立たない箇所にECO-B 木部用を刷毛で5センチ四方程度にしっかりと塗布します。(木に十分浸透させられる程度)
 - 塗布してから10~15分程度乾燥させて下さい。
 - 問題がなければ本工事に掛かって下さい。
- ※下処理が不十分な場合、ECO-B木部用を塗布した後残った汚れが出てシミを作る場合があります。

作業手順

- ① ECO-B木部用を原液のまま必要なだけポリ容器に入れて使用して下さい。
※塗布量は1㎡当り 20 ml程度を目安にする。
- ② ゴム手袋を着用し作業に掛かって下さい。
- ③ ECO-B木部用を乾燥した木部に均一に刷毛でしっかり塗布して下さい。
(滴らない程度にかつ木に浸透するように)
- ④ 濡れ色をより深く出したい場合は20～30分後繰り返し同じ作業をして下さい。
- ⑤ 室内での作業の時には、十分に換気をして下さい。
(マスク、メガネを着用して下さい。)
- ⑥ 可能であればサーキュレーターで送風して下さい。
※ 塗布後のドライヤー等による強制乾燥は、木の変質をきたす恐れがありますので行わないで下さい。
※ 塗布後乾燥前に水や湿気に当たるとくすんだり、シミになりますので、十分注意して下さい。
※気温が十度以下のときは液剤が浸透せずに固着してしまう可能性があります。

使用上の注意

- 本製品は薄めず原液のまま使用して下さい。
- 火気の側で使用しないで下さい。※火気厳禁
- 本製品は塗料、仕上げ剤ではありません。
- 施工箇所を十分に乾燥させて下さい。(乾燥が不十分の場合、液剤が分離してしまい保護効果は期待できません)
- 施工時は晴れの日を選び雨の日は避けて下さい。
- 室内での作業については十分に換気をして下さい。
- 塗布後のドライヤー等の熱による強制乾燥は行わないで下さい。
- 塗布後乾燥前に水や湿気に当たるとくすみや、シミの原因になりますので、塗布後 6 時間程度は水分をあてないように十分注意して下さい。
- 本製品がアルミのドア等の施工部位以外に付着した場合は、速やかにその部位に保護剤をウエスに少量とり拭いた上で、更に速やかに乾いたウエスで拭き取って下さい。
- 用途以外に使用しないで下さい。

保管上の注意

- 直射日光を避け、子供の手の届かない屋内で常温にて保管して下さい。
- 火気の側に保管しないで下さい。※火気厳禁
- 必ず密栓し鉄缶で保管して下さい。※ポリ缶不可
- 車内での保管は絶対に避けて下さい。
- 使用した余りの本製品や、汚れの混入した本製品は保管しないで下さい。
- 他の製品と混ぜたり、水分を混入させないで下さい。
- 本製品を廃棄する場合には、おがくず、ウエス等に吸収させ焼却して下さい。

ECO-石ピカ

(石材用保護剤)

用意する道具 (作業1人分)

・ ECO-石ピカ	1本
・ ポリ容器 (1~3ℓ)	1個
・ 化学繊維100%の刷毛又はニス用刷毛	1本
・ スポンジ	1個
・ ゴム手袋	
・ 防毒マスク	1個
※ 作業中多少臭いがしますので、臭いの気になる方はマスクの着用をお勧めします。	
・ 保護メガネ	1個
・ 布ウエス	相当数
・ マスカー	相当数

作業前の準備

- ゴム手袋、保護メガネ必要に応じて防毒マスクを着用し作業に掛かって下さい。
- 植栽・車等飛散の恐れがある箇所にはマスカー等で養生して下さい。
- 刷毛は専用の刷毛を使用して下さい。
- 作業面全体を十分乾燥させておいて下さい。(乾燥していないままですと石ピカは湿気を嫌いますので液剤が分離してしまい躯体に浸透せず艶が出ません)
- 作業面のごみ、埃をウエス等で落としておいて下さい。

テスト方法

- 本作業の前に必ずテストをして下さい。
- テストの仕方はなるべく目立たない場所に石ピカを5センチ四方程度塗布します。(液ダレをしないよう薄く塗布して下さい。)
- 塗布してから20~30分程度乾燥して下さい。
- 問題がなければ本工事に掛かって下さい。

※下地処理が不十分なまま塗布すると、シミやくすみが出る場合があります。

作業手順

- ① ECO-石ピカを原液のまま必要なだけ取り分けてご使用下さい。容器はポリ容器を使用して下さい。
- ② 刷毛又はスポンジで均一に薄く(液垂れをしない程度)塗布して下さい。
(一度に広い面積に塗布せず1~5㎡程度にとどめて下さい。)
- ③ ガラスに塗布するときは、刷毛又はスポンジで全体にムラなく塗布して下さい。
- ④ 10~15分程度放置後、全体にムラがないか確認して下さい。
※もしムラがあるようならこの時点でスポンジでそつとなでるように修正をして下さい。
※浸透性の少ない物(鏡面仕上げの石材及びタイル、ガラス等)の場合は表面に残った液剤を乾いたウエスで拭き取って下さい。
- ⑤ 塗布完了後乾燥するまで通常3~5時間かかります。乾燥前に手を触れたりして痕が付いてしまいますとそのまま痕が残ってしまいます。
(後の修復は大変困難です)
- ⑥ 室内での作業の時には、十分換気をして下さい。
- ⑦ 塗布後乾燥前に水や湿気に当たるとくすんだり、シミになりますので、十分注意して下さい。

※気温が十度以下のときは液剤が浸透せずに表面に固着してしまう可能性があります。

※塗布量：浸透性の多い物(バーナー仕上の石材、石調タイル等)は1ℓ当り15㎡程度
浸透性の少ない物(鏡面仕上げの石材及びタイル、ガラス等)は1ℓ当り20㎡程度を目安にして下さい。

使用上の注意

- 本製品は薄めず原液のまま使用して下さい。
- 火気の側で使用しないで下さい。※火気厳禁
- 本製品は塗料、仕上げ剤ではありません。
- 施工箇所を十分に乾燥させて下さい。(乾燥が不十分の場合、液剤が分離してしまい保護効果は期待できません)
- 施工時は晴れの日を選び雨の日は避けて下さい。
- 室内での作業については十分に換気をして下さい。
- 塗布後のドライヤー等の熱による強制乾燥は行わないで下さい。
- 塗布後乾燥前に水や湿気に当たるとくすみや、シミになりますので、塗布後6時間程度は水分をあてないように十分注意して下さい。
- 本製品がアルミのドア等の施工部位以外に付着した場合は、速やかにその部位に保護剤をウエスに少量とり拭いた上で、更に速やかに乾いたウエスで拭き取って下さい。
- 用途以外に使用しないで下さい。

保管上の注意

- 直射日光を避け、子供の手の届かない屋内で常温にて保管して下さい。
- 火気の側に保管しないで下さい。※火気厳禁
- 必ず密栓し鉄缶で保管して下さい。※ポリ缶不可
- 車内での保管は絶対に避けて下さい。
- 使用した余りの本製品や、汚れの混入した本製品は保管しないで下さい。
- 他の製品と混ぜたり、水分を混入させないで下さい。
- 本製品を廃棄する場合には、おがくず、ウエス等に吸収させ焼却して下さい。

ECO-コンクリート

(コンクリート用保護剤)

用意する道具 (作業1人分)

- ・ ECO-コンクリート 1本
 - ・ ポリ容器 (1~3ℓ) 1個
 - ・ 化学繊維100%の刷毛又はニス用刷毛 1本
 - ・ ゴム手袋又は、ビニール手袋
 - ・ ウェス 相当数
 - ・ マスカー 相当数
- ※ 室内での作業の時、畳等必要に応じて養生して下さい。
- ・ 防毒マスク 1個
- ※ 作業中多少臭いがしますので、臭いの気になる方はマスクの着用をお勧めします。尚、作業が終了し乾燥すると臭いは消えます。
- ・ 保護メガネ 1個

使用方法

1. 準備 : ①ゴム手袋、保護メガネ、必要に応じて防毒マスクを着用して下さい。
②塗布にはニス用刷毛もしくは噴霧器を使用して下さい。
③作業時の容器はポリ又は金属の手缶を使用して下さい。
④ガラス、サッシ、木製建具、植栽、車、池等飛散の恐れがある箇所及び施工しない部分にはマスカーやビニールシート等で養生をして下さい。
⑤ホコリは乾いたウェスや刷毛等でとっておいて下さい。
⑥施工箇所全体を十分に乾燥させておいて下さい。乾燥は自然乾燥が望ましいが強制乾燥する場合は熱をあてずに風乾(扇風機等)で行って下さい。
2. テスト : ①本作業前に必ずテストをして下さい。
②なるべく目立たない箇所にECO-コンクリートの原液を刷毛で塗布して下さい。(5cm²程度)
③15分後程度自然乾燥させて下さい。
④変質等の問題がなければ本作業を行って下さい。

作業手順

- ①ECO-コンクリートを原液のまま必要なだけ容器に取り分けてご使用下さい。
- ②刷毛又は噴霧器等で均一に薄く(液垂れをしない程度)塗布して下さい。
- ③10～15分程度放置後、全体にムラがないか確認して下さい。
- ④塗布完了後乾燥するまで通常3～5時間かかります。室内での作業の時には、十分換気をして下さい。
- ⑤塗布後乾燥前に水や湿気に当たると効果が失われますので、十分注意して下さい。

※気温が十度以下のときは液剤が浸透せずに表面に固着してしまう可能性があります。

使用上の注意

- 本製品は薄めず原液のまま使用して下さい。
- 火気の側で使用しないで下さい。※火気厳禁
- 本製品は塗料、仕上げ剤ではありません。
- 施工箇所を十分に乾燥させて下さい。(乾燥が不十分の場合、液剤が分離してしまい保護効果は期待できません)
- 施工時は晴れの日を選び雨の日は避けて下さい。
- 室内での作業については十分に換気をして下さい。
- 塗布後のドライヤー等の熱による強制乾燥は行わないで下さい。
- 塗布後乾燥前に水や湿気に当たるとくすみや、シミの原因になりますので、塗布後6時間程度は水分をあてないように十分注意して下さい。
- 本製品がアルミのドア等の施工部位以外に付着した場合は、速やかにその部位に保護剤をウエスに少量とり拭いた上で、更に速やかに乾いたウエスで拭き取って下さい。
- 用途以外に使用しないで下さい。

保管上の注意

- 直射日光を避け、子供の手の届かない屋内で常温にて保管して下さい。
- 火気の側に保管しないで下さい。※火気厳禁
- 必ず密栓し鉄缶で保管して下さい。※ポリ缶不可
- 車内での保管は絶対に避けて下さい。
- 使用した余りの本製品や、汚れの混入した本製品は保管しないで下さい。
- 他の製品と混ぜたり、水分を混入させないで下さい。
- 本製品を廃棄する場合には、おがくず、ウエス等に吸収させ焼却して下さい。

洗 浄 効 果 と 使 用 液 剤

外壁素材	汚 れ					視覚効果	注 意 点
	煤煙	水垢	カビ	サビ	エフロ		
陶器質	F	F	A	F	F	80%	劣化の度合いにより艶ボケする場合がある
せつ器質	F	F	A	F	F	70%	劣化の度合いにより艶ボケする場合がある
磁器質	F	F	A	F	F	90%	
ステアタイト質	F	F	A	F	F	70%	施工個所により事前テストにより効果確認要
アクリル塗装	F	F	A	F	F	80%	塗装劣化による黒ずみは除去できない
パネル	F	F	A	F	/	80%	塗装劣化による黒ずみは除去できない
コンクリート	F	F	A	F	F	90%	雨により劣化した部分の表面が粗く見える
リシン塗装	F	F	A	F	F	80%	
サイディング	F	F	A	F	/	80%	

床素材	汚 れ					視覚効果	注 意 点
	ヒールマーク	水垢	カビ	サビ	エフロ		
石 材	O	F	A	F	F	80%	劣化の度合いにより艶ボケする場合がある
塩 ビ	O	O	A	F	F	90%	ワックスは剥離した後に施工する
ピータイル	O	O	A	F	/	90%	ワックスは剥離した後に施工する
特殊タイル	O	O	A	F	F	70%	施工個所により事前テストにより効果確認要

その他	汚 れ					視覚効果	注 意 点
	ヤニ(煙草)	水垢	カビ	サビ	エフロ		
木	I	F	I	F	/	90%	アクが出た場合は雑巾等で拭き取る
クロス	A	O	A	F	/	90%	日焼けは対象外
浴 室	/	O	A	F	F	90%	
FRP	/	O	A	F	F	90%	
換気扇	O	/	/	F	/	90%	
空 調	O	/	O.A	/	/	90%	

施 工 上 の 注 意 点 (概 略)

- ① 植樹・車には変質の恐れがある為に養生が必要
 - ② ガラス・アルミサッシには養生の必要性は少ないが、施工時に多量の水で洗浄を行なう
 - ③ 厚いエフロは液剤塗布前にケレンが必要
 - ④ Fは刷毛又はブラシ・Iは刷毛による塗布を必ず行なう(スプレー厳禁)
 - ⑤ 繊維質には変色の恐れがある

ECO-I (木部用) Q&A

Q. 無垢の木にECO-I (木部用) を刷毛塗りしたが、反応が鈍い。

A. 家内の木の場合、築年数が経過していると、自然と経年の「手垢・タバコのヤニ・油汚れ」が付着し無垢の木でありながらコーティングされた状態と同じになる。

ECO-I を2～3倍に希釈し、刷毛塗りした上で、スコッチブライトを木目に合わせブラッシングをする。木を覆った手垢やヤニが徐々に剥がれてくるので、更にECO-I を2～3倍に希釈し、刷毛塗りする。更に乾いた後で、2～3倍に希釈したECO-F を刷毛で一度塗って下さい (ドライヤーで乾かし木の反応を見てみると良い)。

※ ECO-I を塗ってとれない場合、少しスコッチ等でブラッシングをした上で作業をして下さい。

Q. ECO-I を刷毛塗りして、一旦きれいに落ちたが後で黒いシミが浮いてきた。もしくは、ECO-I だけではシミがとれない。

A. 木によっては、ECO-I を2～3倍に希釈し刷毛塗りする事でシミ等があがって来る場合があります。また、経年のある木は汚れが木の内部にまで染み込んでいます。

ECO-F を2～3倍に希釈し、シミの部分に刷毛塗りして下さい。シミが抜けたら色合わせを見て、シミの部分だけ白く浮く場合は、更に薄いECO-F を全体に刷毛塗りして下さい。

※ ECO-I は、カビや日焼け等を一液で落としますが、染み込んだ経年のシミは取り切り切る事が出来ません。ECO-F を乾いた後、刷毛塗りする事で除去できます。

Q. ECO-Iを刷毛塗りした後、少ししたら木が毛羽立ってきました。または白い粉が出てきた。

A. 汚れのひどい木等は、セルロースと言う「人間で言う油分」がなくなっており、ECO-Iを刷毛塗りすると紫外線に当たって黒くなったリクニンが元に戻り、その油分が飛んだ状態が現れ「毛羽立ち・白い粉」を出します（その木の本来の状態が現れます）

毛羽は乾いたウエスで、白い粉は濡れたウエスで拭き取ってください。

Q. 杉の木（板）にECO-Iを刷毛塗りしたら黒くくすんだようになった。

A. 杉の木（板）の赤味の部分にECO-Iを塗ると黒くなる場合があります。これは・・・
ECO-Fを2～3倍に希釈し、シミの部分に刷毛塗りして下さい。

Q. ワックスの塗ってある木に誤って、ECO-Iを塗ってしまったら木が黒くシミのようになった。

A. ワックスの中でも天然蠟を使ったワックスには、一部化学反応をすることがあります。
ECO-Fを2～3倍に希釈し、シミの部分に刷毛塗りして下さい。

Q. 松から出るマツヤニは取れないのですか・・・

A. マツヤニは松の木自体から出るもので汚れ等ではありませんので、ECO-Iでは取れません。

Q. 松のアオは取れるのですか

A. 松のアオもマツヤニと同じく松自体から出るものです。製材された松の木のアオはECO-Iで取れますが、家の柱や梁に使用されている「松の丸太」の下部に出てきたアオは中から染み出て来ているので、取っても取っても出てきます。完全に除去する事は出来ません。

Q. ベニヤ板やスギ板は、ECO-Iでは反応が鈍いのですが…

A. ECO-Iを2～3倍に希釈し、刷毛塗りし、乾いたらECO-Fを2～3倍に希釈し、刷毛塗りして下さい（ドライヤーで乾かして反応を見ると良い）

Q. 外の本部の洗いをしたのですが、誤って下の芝生にECO-Iをこぼしてしまっただのですが大丈夫でしょうか

A. ECO-Iは食品添加物を主成分に作っておりますので、植樹には基本的には影響を及ぼしませんが、中には四葉のクローバーの様に非常に弱い葉には、葉枯れをおこす事があります。しかし、根は枯れておりませんので施主様に御説明下さい。土から生えている植樹は結構ですが、施工個所の近くにある植木鉢類は移動してから施工して下さい。
直ぐに一応、水を流しておいて下さい。

ECO-A Q&A

Q. シーリング目地のカビが取れない、風呂のホースのカビが取れない。

A. カビは、柔らかいシーリングには汚れを引っ張り、内部に「色素沈着」を起こします。カビは除去されていますが中に引っ張られたその汚れ（色素沈着）は取れません。施主様にシーリング内部の色素沈着をご説明して下さい。
ECO-Aをテッシュに浸し、その個所に付けサランラップで貼って乾くまでその間々にして下さい。シーリング及びゴムホースの中までECO-Aが浸透し取れる場合があります。

Q. ビニールクロスのヤニが取れない

A. 表面だけのヤニでしたら容易に取れますが、ビニールクロスの内部に染み込んだヤニは一度、除去しても下から下か染み出てきます。
かなり染み込んだ頑固なヤニは、ECO-Aを刷毛塗りでなくローラーか噴霧で少し多めに噴き付けして下さい。
5分ほど置いて、軽く絞ったウエスで拭き取って下さい。更に取りれない場合は、繰り返しして下さい。

Q. 布クロスのカビやヤニは取れるのですか

A. ECO-Aは繊維製品を色落ちさせますが、布クロスでもホワイト系であれば通常通りの施工方法で除去できます。塗布後は送風機で乾燥させて効果を見て下さい。

Q. ECO-Aで除カビをしたが、1ヶ月程度でまたカビが出てきた。

A. ECO-Aを噴霧して15分程度でカビが消えたからといって水で洗い流しませんでしたか・・・ECO-Aを噴霧して30分放置するのは、カビの菌が死滅するのに要する時間です。外観上、消えても菌が死滅していないとこのように直ぐにカビが再発生します。

Q. カビや薬は取れたが、コケが残り満足いかない。

A. カビや薬は菌類ですが、コケは植物です。ECO-Aは植物には反応をしません・・・ですから、コケは除去できません。

スクレイパー等、人の手により除去して下さい。

※ 特に「緑色のカビ・薬・コケ」の区別がつかない場合、ECO-Aを刷毛塗りしてみてください。反応し除去できればカビもしくは薬であり、取れなければコケです。カビや薬であれば必ず除去できます。

Q. 大矢石のカビが取れない

A. ECO-Aを多めに噴霧し、内部に浸透させるようにして下さい。但し、カビが汚れの中に引込み吸着させてしまい満足に落ちない事があります。

ECO-F Q&A

Q. タイルをECO-Fで洗ったらその時点ではきれいに落ちたのですが、後で白くなった。

A. ECO-Fは酸性洗剤です。酸性の持つ基本的特性は「ガラス・石・金属等の躯体を傷める」性質を持っています。ECO-Fは、この本来の酸性が持つ特性に金属封鎖剤を入れ麻酔をかけてあります。ですから、15分程度以内に大量の水で洗い流す事で、躯体の上の洗剤の残留を取り除けば、躯体を傷める事はありません。
この状態は水洗い不足か、ECO-Fで洗浄した後長時間放置したかの何れかです。
保護剤「ECO-石ピカ」を刷毛で少量一度塗りし、乾拭きをして下さい。

Q. 外壁タイルを洗って綺麗になったが、マスカー養生をしなかったために窓ガラスや1階部分の大理石に垂れシミができた。

A. 上記同様に、マスカー養生していない部分に水の流し不足（躯体の上の洗剤の残留）が生じ、起こったものです。
保護剤「ECO-石ピカ」を刷毛で少量塗って下さい。その塗る際にはスポンジで縦横に均一に延ばすように塗った後に乾いたウエスで拭き取って下さい。
※ ECO-石ピカの施工日は天気の良い日に限ります。また、施工時間中は晴れていても、乾かない前に雨に当たるとやはりシミになります。

Q. ラスタータイルを洗った際、汚れは落ちましたが艶も飛んでしまいました。

A. パールやクリア仕上げのタイル及びラスタータイルの汚れには、まず、ECO-Oで取れないかをテストして下さい。取れない場合に初めて、ECO-Fを希釈度と汚れの落ち具合を確かめた上で施工して下さい。上述のように直ぐに水で流し躯体上の洗剤の残留をなくせば問題ないですが、必ずテストの上、施工して下さい。
保護剤「ECO-石ピカ」を刷毛で均一に塗って下さい。但し、水の洗い流し不足で且つ時間経過したものは、薬品やけを起こし、直す事は出来ません。

Q. ステンレスやアルミサッシのサビをECO-Fで洗ったら、変色した。

A. ECO-Fは酸性洗剤です。酸性の持つ基本的特性は「ガラス・石・金属等の躯体を傷める」性質を持っています。ECO-Fは、この本来の酸性を持つ特性に金属封鎖剤を入れ麻酔をかけてあります。ですから、15分程度以内に大量の水で洗い流す事で、躯体の上の洗剤の残留を取り除けば、躯体を傷める事はありません。
この状態は水洗い不足か、ECO-Fで洗浄した後長時間放置したかの何れかです。
金属類の変色は直す事は出来ません。

Q. サビ染みが取れない

A. ECO-Fは「サビ染みを取る」洗剤で、サビ自体は取れません。また、コンクリートの深くに染み込んだサビ染みは、一度取ってもまた浮いてきます。繰り返し作業をして下さい。
※ 鉄自体のサビを取る薬品ではありませんので、注意して下さい。

Q. エフロが取れない

A. エフロはカルシウム分ですので、必ずECO-Fで反応します。一見エフロに見えますが、コンクリ強化剤がエフロと一緒に流れ出てくる事があり、この強化剤は除去することが出来ません。
尚、エフロ除去は堆積分をケレンで削った上で、ECO-Fを刷毛塗りしてブラッシングをして下さい。除去できない頑固なエフロは繰り返し作業をして下さい。また、最後の一度が中々とりづらい、しかし時間が無いと言うときは、保護剤の「ECO-石ピカ」を刷毛塗りして下さい。

Q. ガラスの鱗状斑点はECO-Fで取れるのですか

A. 2~3倍に希釈したECO-Fを刷毛塗りし、1~2分後にスコッチブライトで円を描くようにブラッシングして下さい。次に濡れたウエスで拭き取ってください（水の流せる場所なら水を流してください）。
※ スコッチでブラッシングした際に、手に当たる感触があれば堆積の大きい事を示していますので、繰り返し作業が必要になります。
※ なるべく少ない面積をこの作業の繰り返しで施工を進めて下さい。大きな面で一度に施工した場合、水の洗い流しが遅れると、ガラスを傷める事があります。

Q. ガラスの曇りは取れますか

A. ECO-Fでは取れません。保護剤の「ECO-石ピカ」をスコッチブライトで円をかくように均一に塗り、乾いたウエスで拭き取って下さい。

ECO-0 Q&A

Q. ビニールクロスの手垢が取れない。

A. ECO-0を2～3倍に希釈し、刷毛で軽く擦るように塗って、5～10分後に乾いたウエスで拭き取ってください。

※ ECO-0は塗るだけでなく、軽くブラッシングをする作業が必要です。

Q. アルミサッシの汚れを除去したら、アルミが白く変色した。

A. アルミでも「アルミ鋳物」や「ブロンズのアルミ」の一部には、ECO-0を塗ると化学反応をおこすものがありますので必ず、テストをした上で施工にかかって下さい。

※ アルミ鋳物はアルミサッシとは全く別の物質です。
他者製品ですが…研磨剤で磨くと殆どが直ります。

Q. ビル内の床の油汚れを落としたいのですが、水が流せません。どのようにしたら良いですか

A. ECO-0を2～3倍に希釈し、噴霧して軽くブラッシングした後、集塵機で吸引して下さい。

Q. 油の堆積が取れない

A. 油の堆積はECO-Oを2～3倍に希釈し、刷毛塗りし5～10分置きますと油が乳化してきましますので、洗剤使用量の効率性から堆積物をケレンした上でブラッシングしながら水洗いして下さい。

Q. ビニールテントの汚れは取れないのですか

A. ECO-AとECO-Oを1：1に混ぜを2～3倍に希釈し、刷毛塗りしてブラッシングして下さい。綺麗に除去できます。